第 25 期第 7 回 IGU 分科会 議事要旨

日時： 2023 年 1 月 6 日（金）10 時 00 分～12 時 00 分
場所： 遠隔会議
出席者（敬称略）： 矢野桂司，春山成子，池口明子，石川義孝，石川徹，井田仁康，岡橋秀典，小口高，奥村晃史，久保純子，近藤康久，篠田雅人，鈴木康弘，竹内裕一，中澤高志，氷見山幸夫，森田喬，山崎孝史，山下潤，山本佳世子，吉田道代，渡辺浩平
欠席者（敬称略）：阿部彩子，伊藤香織，近藤昭彦，中谷友樹，横山智
オブザーバー（敬称略）：田邉裕

※ 委員 27 名中 22 名の出席により委員会は成立した.

配付資料：

資料１：第 6 回議事要旨
資料２：地名に関する意思表出内容
資料３：大阪テーマ会議について
資料４：IGU 報告
資料５：IAG 小委員会報告
資料６：ICA 小委員会報告（6-1～2）
資料 7：学術会議の在り方について（7-1～7）

議事等：

1. 議事録の確認

・前回議事録（資料１）の内容を確認した。

2. 地名に関する意思の表出内容

・地名に関する意思の表出内容とスケジュールについて，資料 2 に基づき説明があり、以下の質疑応答があった。
・提言タイトルの「標準化」は誤解を生じる可能性はないか。
・前回の報告でも，「地名標準化の必要性」という項目タイトルとして使用した経緯もあり，小委員会で検討した結果，この用語を使用することとした。
・標準化についての前回報告の定義はわかりやすいが，これを使わないのか。
・UNGEGN の定義を参照してより厳密な説明を加えた。
・よりわかりやすい説明にするために今回改定を加えた。
・４つの提言はそれぞれ誰に宛てたものなのかがわかりにくい。4)で提言した組織の必要性を中心に、そのための１）～３）の実施という形式にしてはどうか。
・検討の余地があるかもしれない。４）には１）～３）だけではなく，UNGEGN に対応する役割もあることを念頭に置きながら検討したい。

・23 期に提言を目指して作成したが，様々な議論があり，提言ではなく報告とした経緯がある。それらの経緯を念頭に置いて検討を進めるべきである。また，UNGEGN に出ていける地名専門家の育成も重要な課題である。
・今後，地域研究委員会や地球惑星科学委員会での査読等が予定されており，それらのコメントも参照しながら検討を進めていく。

3.　Islands の IGU テーマ会議

・資料 3 に基づいて下記の報告があった。
・IGU テーマ会議では，基調講演を含め 98 件の発表を予定している。若手研究者旅費助成には 30 名の応募があり，審査の結果 16 名が選考された。

4.　その他の IGU 関係

・資料 4 に基づいて下記のとおり報告と議論があった。
・ISC による Distinguished Lecture Series on Basic Sciences for Sustainable Development には，IGU から推薦された Simon Dalby 氏が第 1 回講演をおこなうことになった。ISC fellows の 57 名の新規会員のうち，GeoUnions から 5 名が選出された。
・IGU 活動要覧（1993 年）にあるように，歴史的にみて日本は IGU において大きな役割を果たしてきた。氷見山委員の前会長任期は 2024 年 8 月の IGC ダブリン大会までであり、次期について検討して欲しい。

5.　小委員会関係

・IAG 小委員会の活動について，資料 5 に基づき報告があった。
・第 10 回 IAG 国際地形学連合大会（コインブラ，ポルトガル）が開催された。
・ICA 小委員会の活動について，資料 6-1～2 に基づき報告があった。2023 年 8 月 13-18 日に南アフリカ・ケープタウンで ICC2023 が開催される。バーバラ・ペチュニク子供地図展作品募集の呼びかけがあった。

6.　その他

・学術会議の在り方をめぐる議論の動向について資料 7-1～7 に基づいて報告があった。

以上